

今後のキャリア教育の指導と在り方

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B4R11023 岩田健太郎

【卒業論文概要】

近年、情報技術革新により社会経済・産業的環境のグローバル化がある。それは日本の産業・職業界に変化をもたらした。このように変化の激しい社会が子どもたちの成育環境を変化させたと同時に子どもたちの将来にも影響を与えている。そのためキャリア教育の重要性が増した。

本論文の目的は、キャリア教育の意義と課題をもとに今後のキャリア教育をどのように指導していくべきなのか。また、キャリア教育を教育の中でどのように位置づけていくべきなのかを明らかにしていくことである。

キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とされている。現在の児童生徒はこの「基盤となる能力や態度」が課題であると示されている。それは、①人間関係を構築する能力の低下。②自分で意思決定をすることができない。③自己肯定感がない、の3つである。この課題の改善策として、私は自分で考えるということが大切であるとする。現在の世の中はインターネットなどの普及によって情報に溢れ、自己決定する場が少なくなったために自己肯定感の低下や意思決定が出来なくなってきたと考える。だからこそ自己決定の場を教育活動全体で増やしていく必要がある。

キャリア教育の課題や子どもたちをめぐる課題を調査した。小・中学校学習指導要領総則では「キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、これまで学校の教育活動全体で行うとされてきた意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧にされてしまい、また、狭義の意味での「進路指導」との混同」と示されている。確かに、キャリア教育というキーワードが叫ばれてはいるが、小学校は関連した内容がないため体系的に行われていないのが現状である。また、「将来の夢を描くことばかりに力点が置かれていた」という課題がある。

キャリア教育は変化の激しい社会の中で生きる力を身につけるための教育である。子どもたちの課題として「自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。」と示されている。その背景として「国際化や情報化による社会環境の変化」とされているが、教育の原点は家庭である。子どもたちが働くことに興味を抱くのは保護者の発言や行動を見て心動かされると思う。職場の愚痴を聞けば働きたくないと思うのは当然だ。

「今の子どもたちは…」という前に、大人たちがどのように仕事に向き合っていくかが今後のキャリア教育の要なのではないのかと考察し、教員はもちろんのこと地域や子どもたちの周りにいる大人たちが真剣に仕事に向き合い、時代の流れに弾力的に思考し取り組むことが望まれることを課題として提示した。